

飼料用麦類を活用した 粗飼料確保と草地の更新

トータルサポート室 佐藤 尚親

2016(H28)年の夏～秋は、台風の連続上陸や長雨により、飼料用とうもろこしや2番牧草の収穫作業が遅れました。それにより草地更新の牧草播種作業も大幅に遅れ、牧草の播種限界時期を過ぎて牧草播種ができない事例が多く発生しました。更新草地により2017(H29)年の良質な1番牧草を予定していたのに「グラスサイレージが足りなくなる」とお困りの方もいらっしゃいます。

春の牧草播種は1番草の収量が少なく、雑草に優占されたり、干ばつで失敗する事もあるため、敬遠しがちですが、「飼料用麦類」を活用することで、問題を解消することができます。

1. 飼料用麦類の春単播播種・収穫後の牧草夏播種

早春にエンバク(または飼料用大麦)を播種、収穫・サイレージ調製して粗飼料を確保し(2,500kg/10a程度)、播種床の雑草を防除した後、牧草を播種します。作業スケジュールは図1のとおりです。

技術的なポイントは以下のとおりです。

- (1) 麦類(エンバク、大麦)は早春に出来る限り早く(遅くとも5月中旬まで)播種しましょう。
- (2) 牧草の播種時期(8月末)および実生雑草発生期間(30日以上)の確保を考えて、麦類は7月中下旬頃(出穂揃い～乳熟期)までに収穫しましょう。
- (3) 大麦を栽培する場合は排水の良い圃場を選び、刈り遅れ時(糊熟以降)の赤カビ病の発生に注意しましょう。
- (4) 麦類播種の作業工程は、整地⇒ブロードキャスターで播種・施肥⇒ロータリーで浅く攪拌(覆土)⇒ケンブリッジローラーで鎮圧します。作溝型簡易更新機で直接播種する方法もあります。
- (5) 麦類の播種量は8kg/10aが適当。8kg以下の

場合、土が露出し収穫時に土砂を拾いやすく、10kg以上にすると徒長気味となり、倒伏しやすくなります。

- (6) 麦類収穫後、速やかに(耕起および)表層攪拌を行い、実生雑草発生・再生を促すため、必ず丁寧に鎮圧しましょう。



H26. 6. 16 エンバク生育風景



エンバク収穫後に牧草播種し、翌年1番草収穫後(H27. 6. 30)の草地

図1 飼料用麦類の春単播播種・収穫後の牧草夏播種 施工スケジュール

前年秋までに前植生の地下茎型 イネ科雑草にグリホサート処理 目的	年 月 旬	播種当年															
		4月			5月			6月			7月			8月			
		下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	
耕起または表層攪拌 飼料用麦類収穫後 当年TY、OG秋播種	播種遅れ 更新失敗による 飼料確保対応	攪拌 エンバク・大麦 播種 浅く攪拌 鎮圧			エンバク・大麦栽培						エンバク・大麦収穫 攪拌 鎮圧			実生雑草発生			播種床 グリホサート 牧草 播種 鎮圧

図2 春播き牧草と飼料用麦類の同伴栽培 施工スケジュール

前年秋までに前植生の地下茎型 イネ科雑草にグリホサート処理	年 越 冬	播種当年												
		4月 下	5月 上	5月 中	5月 下	6月 上	6月 中	6月 下	7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	8月 中	
飼料用麦類と牧草の 春播種 同伴栽培 TY、OG等春播種	播種遅れ 更新失敗による 飼料確保対応	攪拌												
		エンバク・大麦 播種	エンバク・大麦栽培						エンバク・大麦収穫					
		浅く攪拌	麦類により雑草抑制											
		牧草播種・鎮圧	牧草生育									牧草生育		

2. 春播き牧草と飼料用麦類の同伴栽培

牧草の春播種においてエンバク（または飼料用大麦）を同伴栽培し、麦類を収穫して粗飼料を確保し（2,000kg/10a程度）以降、牧草地として活用する方法があります。作業スケジュールは以下の図2のとおりです。

技術的なポイントは以下のとおりです。

- 播種時期は、機械作業ができるようになったら出来る限り早く（遅くとも5月中旬まで）播種しましょう。
- 麦類（エンバク、大麦）の播種量は5kg/10aが上限ですが（1990新得畜試、1991天北農試）、その後利用する牧草のスタンドを安定確保するためには、3kg/10a程度が安心です。牧草の播種量は

通常よりも若干割増しします。

- 表面に麦類の種が露出しますと干ばつ害や鳥害のリスクが高まります。麦類の定着率・収量改善効果・雑草抑制効果向上のため麦類を先に播種し、ロータリーで浅く覆土した後に牧草を播種し、十分に鎮圧します（効果は写真参照：覆土なしではヒエが繁茂）。作溝型簡易更新機で直接播種する方法もあります。
- 施肥量は通常の草地更新と同程度とします。
- 麦類の収穫時期は、播種後80日程度経過し麦類が出穂揃い～乳熟期に達した頃に収穫します。その際、牧草へのダメージを小さくするため、高めに刈り取りします。

大麦を活用する場合は排水の良い圃場を選び、刈り遅れ時（糊熟以降）の赤カビ病の発生に注意しましょう。

3. 同伴栽培に適している品種

1) エンバク

- ウルトラハヤテ韋駄天：耐倒伏性に優れ、細茎で予乾が楽、播種適期幅が広い超極早生品種。冠さび病に強い。
- スーパーハヤテ隼：草丈高く、茎が太く、葉が広い極早生の安定多収品種。冠さび病に強い。

2) 大麦

- ワセドリ2条：極早生で予乾燥しやすく、対倒伏性に優れて牧草との混播種に適している品種。
- ムサシボウ：穂に芒無く（有芒個体はまれに発生）、耐倒伏性に優れ、ワセドリ2条（極早生）よりも2週間程遅い多収品種。

